

道の駅への期待

一般社団法人エコロジー・カフェ理事
元総務省大臣官房総括審議官

山崎俊巳氏

今でこそ当たり前になった「道の駅」。初めて耳にしたときは変な名称だなと思っただのを記憶している。駅という言葉はその視覚情報と共に鉄道と紐ついて脳の中で記憶処理されていたから、駅と聞くと自然と鉄道が思い浮かんでしまう。ようやく私の脳の中で「駅」と「道の駅」が区別されて、無意識に処理されるようになったらしい。

出張や趣味の旅で地域を訪ねる時は、必ずと言ってよいほどに道の駅に足を運ぶ。昨年は宮崎、能登、群馬、北海道、福島を訪ねた時にお世話になった。そんな時、個人的な道の駅に出逢うのが楽しみである。

コンビニとは一味も二味も違う。北から南まで歴史が培った文化や固有の風土がある。道の駅がそんな奥深さを演出していると、即座にその地域に心が引き込

地域の魅力を発信し協働の場に

まれてしまう。その地域の人びとはどんな暮らしをしてきたのだろうか。これからはどのように進展していくのだろうか。想像することは楽しい。違いを理解すると自分を知ることにもつながる。好奇心が心を豊かにしてくれる。

そんな道の駅は、地域の人びとの生活のよりどころであり、訪れる人びとにとっては地域の玄関機能を果たしているのである。地域の魅力を発信し、地域で生業を営むお店や人びとも協働する。素通りしてはもったいない。



人びとが育てる「地域のシンボル」 道の駅の進化に期待し応援したい

【プロフィール】東京工業大学大学院経営工学専攻修士課程修了。郵政省入省、総務大臣秘書官など歴任し内閣官房内閣審議官(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長)から現職

車で来る人、バイクで来る人、自転車ですりリング中に立ち寄る人、バスで来る人、歩いてくる人、ランニング途中に立ち寄る人。みんなどれくらい滞在時間があるのでしょうか。笑顔があり、人々の間に会話が生まれないと。

一時的な「たまりば」です。そして地域内のいろんな場所をしっかりと繋いでいって欲しい。今日的には、地域防災センター的な役割も期待されているのでしょうね。地域の人びとが担い手となる地域のシンボルとなつて欲しい。地域の人びとが育てる道の駅の、これからの進化に期待したい。応援していきたい。